様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２５１１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１４４３０

研究課題名（和文）「価値の明確化」の手続きを取り入れた大学生の就職活動継続支援プログラムの確立

研究課題名（英文）An attempt to organize the job-hunting continuation program with "value" essence among Japanese university students

研究代表者
輕部　雄輝（KARUBE, Yuki）

帝京平成大学・臨床心理学研究科・講師

研究者番号：２０７８０４８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，一般企業に対する就職活動を行う大学生において，現実的将来の検討によってビジョンを高めたうえで就職を達成することに加えて，「価値の明確化」によって社会人生活への円滑な移行を促進しうる，就職活動継続支援プログラムを確立することを目的とした。その結果，不採用経験等のストレスフルな事態が不可避である就職活動の個人の継続状況をモニタリングしながら行動計画を立案すること，人生上大切にしたいことから就職活動におけるゴールやコミットメントする行為を明確にすること，他者とのかかわりや共同作業によって俯瞰的な視点を養うこと，以上を通して就職活動を継続することが効果的であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，就職活動中の困難に伴う大学生活不適応，就職活動後および実際の入職後の不適応や早期離職といった課題に対して，個人の就職活動そのものの適応的な継続支援のみならず，以降の社会人生活に対して円滑に移行しうる就職活動継続支援プログラムが作成された。従来の内定獲得を直接的に支える方法論に加えて，就職活動の継続過程のモニタリングや価値の明確化の手続きを並行させることで，就職活動中ならびに就職後の個人の適応維持において効果が向上する可能性があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to establish a job-hunting continuation support program that can promote a smooth transition to working life by "clarifying values" in college students, in addition to enhancing their visions by examining their realistic future. The following three points were suggested to be effective in supporting the continuation of job-hunting activities: (1) to formulate an action plan while monitoring the continuation of job-hunting activities, which inevitably involves stressful situations such as rejection by companies, (2) to clarify the goal and committed actions in job-hunting activities based on what is important in life, (3) to develop an overview perspective through involvement and joint work with others.

研究分野：臨床心理学

キーワード：キャリア教育　大学生の就職活動　レジリエンス　価値の明確化　コーピング　メタ認知　ソーシャルサポート

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

大学生の就職活動を取り巻く環境について，近年では最終的な就職内定率こそ 90%を超えているが，一般企業への就職活動の継続においては，一定の困難さがあることが指摘されている。具体的には，選択肢の膨大さ，選択基準の不明確さ，新規で不慣れな課題であること，時間的制約といった要因が挙げられている（若松・下村，2012）。加えて，その過程で，企業からの複数回にわたる不採用経験等の自己否定的かつストレスフルな事象も不可避であることから，いかにそうした事態を克服しながら個人の就職活動の継続を支援していくかという観点は重要であると考えられる。

一方で，就職活動においては，ただ行動を起こせばよいというわけではないこともわかっている。就職活動等の進路選択課題に際して個人が経験する行動を「アクション」と「ビジョン」という 2 側面からとらえた検討（梅崎・田澤，2013）によれば，「アクション」が高まることで内定獲得が促進されるが，「ビジョン」が十分でない状態では就職後の早期離職が予測され，社会人生活への円滑な移行や職場適応が妨害される可能性があることが指摘されている。

これまでは，内定獲得のために，エントリーシートや面接試験の対策といった観点から，自己理解を促進するツール等を個人が用いながら就職活動の継続が支えられていた。一方で，ストレスフルな事象が不可避であるなかでも就職活動を継続し「ビジョン」を明確にしていくという観点から，本研究では，企業からの不採用経験を克服していく過程としての「就職活動維持過程」理論を援用した心理教育およびモニタリング，以降の社会人生活における適応を長期的に維持するための「価値の明確化」の手続き，以上を含んだ大学生の就職活動継続支援プログラムを考案する。

２．研究の目的

以上の議論を踏まえて，「ビジョン」の明確化を促進しうる就職活動維持過程の心理教育，モニタリング，価値の明確化の手続きを含めたプログラムを考案することを目的とした。本プログラムと従来の内定獲得のための自己理解を促進しうるツールを用いたプログラムとを比較し，就職活動および社会人生活の適応を予測しうる指標において効果検証を行った。

３．研究の方法

（1）就職活動維持過程および価値の明確化に基づく介入効果の検討

2024 年 4 月入社に向けた一般企業への就職活動を行う 4 年制大学所属の大学 3 年生について，本研究が考案するプログラムを実施する群（介入群）と，従来の自己分析ツールを援用したプログラムを実施する群（従来群）とに無作為に振り分けた。いずれのプログラムも 3 回ずつ実施され，1 回目は就職活動が本格化する前の 2022 年 12 月～2023 年 1 月，2 回目は就職活動本格化後の 2023 年 2 月～3 月，3 回目は就職活動終了後の 2023 年 9～10 月に実施した。第 1 回は，介入群では価値の明確化のワーク，従来群ではこれまでの体験から興味・関心を把握するためのワークを実施し，第 2 回は，介入群では就職活動維持過程のモニタリングとその充実を意図したワーク，従来群では社会人基礎力のモニタリングと自身の強みを把握するためのワークを実施した。第 3 回は，各回共通のアンケートの回答の後に，就職活動を振り返ってのインタビューを実施した。

（2）就職活動の継続のあり方が就職活動後ならびに社会人生活初期の適応に与える影響

2023 年 4 月入社に向けた一般企業への就職活動を行い，就職を控えた 4 年制大学所属の大学 4 年生と，2024 年 4 月入社に向けた一般企業への就職活動を行っている 4 年制大学所属の大学 3 年生それぞれに対して，個人の就職活動維持過程と適応状況との関連を検討するために，2 回にわたる追跡調査を実施した。大学 4 年生については，1 回目の調査は 2023 年 3 月（就職活動終了後の振り返り），2 回目の調査は 2023 年 10 月（入社後半年経過時）に実施した。大学 3 年生については，1 回目の調査は 2023 年 3 月（就職活動が本格化している時期），2 回目の調査は 2023 年 12 月（就職活動終了時）に実施した。

４．研究成果

１）就職活動維持過程および価値の明確化に基づく介入効果の検討

プログラムのいずれの回にも参加した者は 16 名（介入群 10 名，従来群 6 名）であった。群

（介入群，従来群）と時点（1 回目，2 回目，3 回目）を 2 要因とする分散分析の結果，「職業適性不安」については，交互作用が有意であった。単純主効果の検討の結果，2 回目から 3 回目にかけて，介入群について有意に得点が減少した。したがって，「就職活動維持過程」の導入によって自身の活動状況をモニタリングしながら，かつ「価値の明確化」によって人生における大切にしたいことを言語化し就職活動におけるゴールとコミットする行為を明らかにすることで「ビジョン」の明確化を促進した群においては，就職活動を終了して一定の時間が経過しても，職業適性不安を低める効果が持続することが明らかとなった。また，「満足度」については，時点による主効果が有意であった。多重比較による検討の結果，1 回目よりも 2 回目，2 回目よりも 3 回目にかけて有意に得点が上昇した。したがって，いずれのプログラムについても，一定の納得感のもとでの就職達成には寄与するものと考えられた。

２）就職活動の継続のあり方が就職活動後ならびに社会人生活初期の適応に与える影響

1 回目，2 回目いずれの調査にも回答の協力が得られた者は，大学 4 年生（から社会人 1 年目）は 352 名，大学 3 年生（から大学 4 年生）は 364 名であった。共分散構造分析の結果，大学 4 年生については，就職直前の第 1 回調査回答時，一般企業への就職活動において現実的な将来を検討する二次的過程を十分に経験した者ほど，就職後半年を経過しての職場適応が良好である傾向がうかがえた。大学 3 年生については，就職活動中の第 1 回調査回答時，価値の明確化が進んでいた者ほど，就職活動に対する満足感や，以降の職場適応を予測する就職活動に伴う自己成長感が高いことがわかった。したがって，就職活動に際しては，価値の明確化，就職活動維持過程における二次的過程の経験が，その後の社会人生活への円滑な移行を促進しうると考えられた。

＜引用文献＞

梅崎 修・田澤 実（2013）．大学生の学びとキャリア――入学前から卒業後までの継続調査の分析――　法政大学出版局

若松 養亮・下村 英雄（2012）．詳解 大学生のキャリアガイダンス論――キャリア心理学に基づく理論と実践――　金子書房

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 輕部雄輝・佐藤純	４．巻 16
２．論文標題 就職活動におけるサポート資源の活用と継続のあり方との関連―インフォーマルな援助者に着目して―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 キャリアデザイン研究	６．最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 輕部雄輝
２．発表標題 価値の明確化の手続きを含んだ大学生の就職活動継続支援のあり方
３．学会等名 日本キャリア教育学会　第45回研究大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 輕部雄輝・田中佑樹・嶋田洋徳
２．発表標題 不採用経験の克服過程に着目した就職活動の継続に対する支援法の開発―就職活動維持過程のモニタリングの手続きを導入した予備的検討―
３．学会等名 日本学校メンタルヘルス学会第27回大会
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関